

量と測定

第3学年

あまりのあるわり算

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

乗法と除法の関係や等分除、包含除の違いが理解できない。

問題：みかん16こを、3人で同じ数ずつ分けます。1人に何こずつ分けられて何こあまりますか。



$16 \div 3 = 5$ あまり1
だから5人に分けられて1個あまる。

答えの数値が何を表しているのか意識できない。

3個のまとまりが5人分で15個。1をたして16個。

除法と乗法の関係が理解できていない。



単元の概要

目標

等分除や包含除であまりのあるわり算の意味を理解し、計算することができる。

内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- あまりのあるわり算（包含除）の意味と表し方
- (あまり) < (除数) の関係の理解
- **等分除**で**あまりのあるわり算**の意味
- かけ算の九九
- かけられる数とかける数の意味

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第6学年	速さ	→ 速さの意味や表し方が十分に理解できない。
第5学年	単位量あたりの大きさ	→ 異種の2つの量の関係を正しくとらえられず、わり算によって求められた数値の意味が理解できない。
第4学年	小数のわり算	→ 商が1より小さくなる等分除の場面で、除法が用いられることを理解することができない。
第3学年	あまりのあるわり算	→ 乗法と除法の関係や等分除、包含除の違いが理解できない。
第2学年	かけ算	→ 数のまとまりや、被乗数と乗数の関係が理解できない。
第1学年	同じ数ずつ	→ 乗法や除法の素地となる「同じ数ずつ」の意味が理解できない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

数図ブロックをみかんに見立て、操作しながら説明する活動

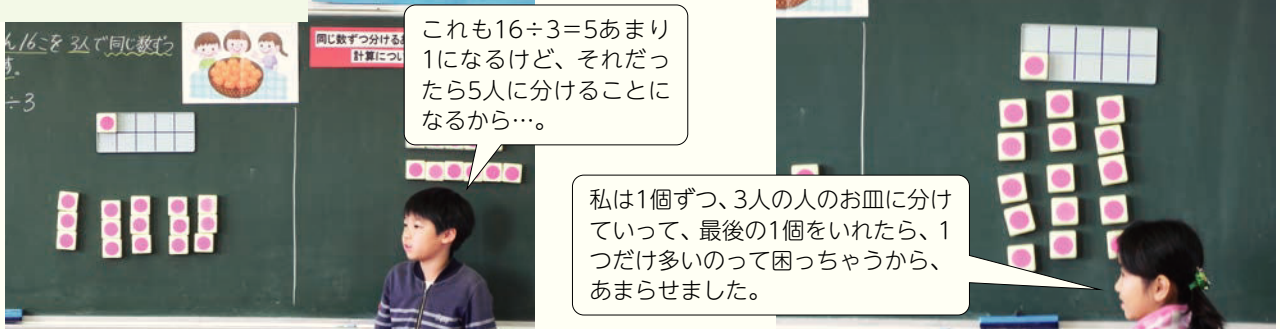
活動のねらい ▶ $16 \div 3 = 5$ あまり1の式について、ブロックを操作しながら話すことで、除数や被除数、あまりの意味を理解できるようにする。

ここがポイント

等分除の場面だと理解できている児童の説明に対して、教師は包含除との違いが理解できない児童の立場に立って問い返す。

→説明する側が、何とか伝えようと、数図ブロックを動かしたりしながら、説明するようになり、児童同士の学び合いが深まる。

期待される児童の姿



式やあまりの数値が何を表すかを、図と行き来させながら話し合うことで、分け方の違いやまとまりがいくつあるのかということ意識して伝え合うことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★深い学びにつながる実践

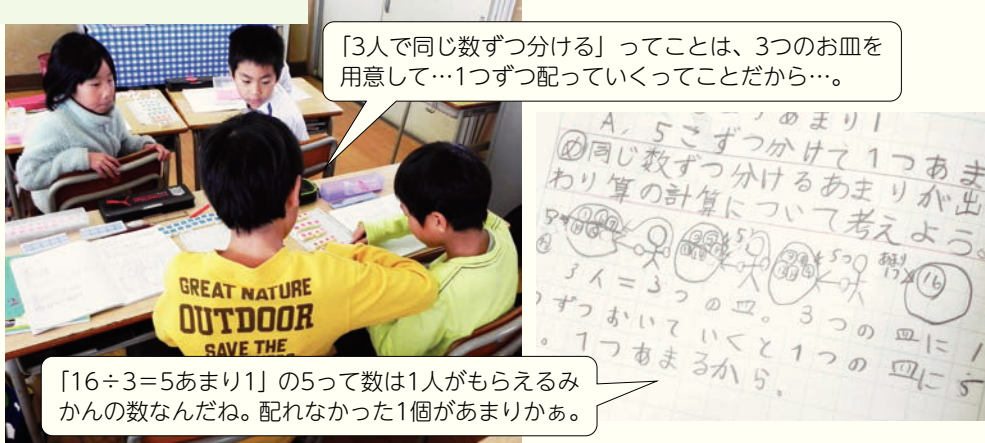
半具体物と式をもとに、全体で話し合われた考えを、再度グループで確認し合う活動

活動のねらい ▶ 全体で出された意見について、4人のグループでもう一度意味の違いを話し合わせ、理解の深化を図る。

ここがポイント

グループ活動の中で、除数×商+あまり=被除数の関係に基づいて説明し合い、 $16 \div 3 = 5$ あまり1の意味をとらえさせる。

期待される児童の姿



理解が十分でない児童のブロック操作をもとに、ノートにかいた図などを用いて、グループで理解を深めることができる。